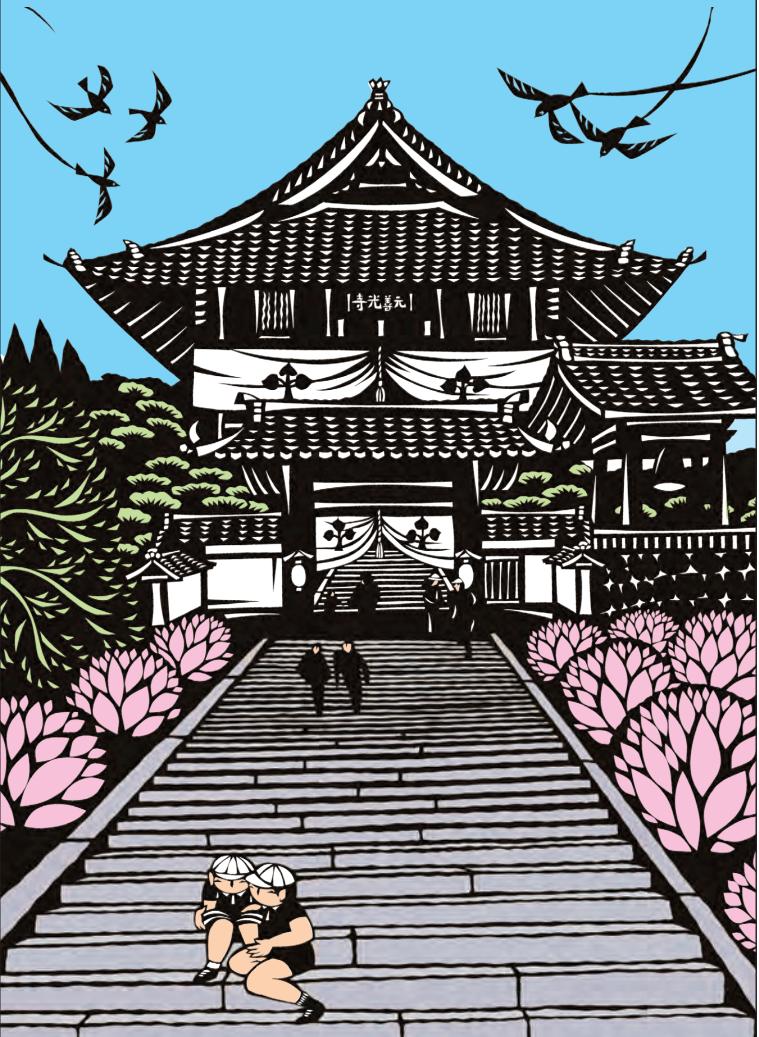


元善光寺

南信州・飯田



本多善光公誕生地



宝物殿拝観・ 西国三十三観音霊場お砂踏み

◆拝観料1人500円

御祈祷
御回向

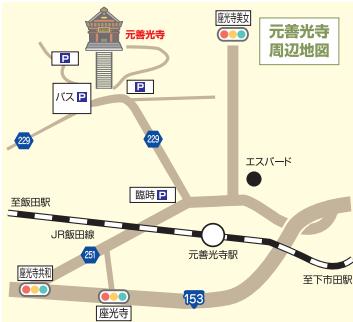
◆厄除、家内安全、交通安全などの諸願成就の御祈祷・
御先祖供養・水子供養隨時受け付け致します。
(予約優先)

主な
年間行事

◆正月元旦～7日初詣
◆2月3日節分大護摩祈祷並びに福豆まき
◆3月春季彼岸法要 ◆5月1日大般若經転読大法要
◆8月3日大施餓鬼法要 ◆9月秋季彼岸法要
◆10月、11月七五三祈願祭 ◆12月31日二年参り、除夜の鐘

交通案内

◆中央道座光寺スマートインターより車で5分。
◆中央道飯田及び松川インターより車で20分。
◆JR飯田線元善光寺駅から徒歩8分。
◆中央道特急バス、名古屋バスセンターより約2時間。
◆中央道特急バス、バスタ新宿より約4時間。



〒395-0001 長野県飯田市座光寺2638
電話(0265)23-2525 FAX(0265)52-5555
ホームページ <https://motozenkoji.jp/> →

七年(丑年・未年)に一度の盛儀

御開帳の御案内



御開帳とは、靈験あらたかにして日頃は厨子の奥に安置秘藏する仏像や仏舎利の扉を開き、帳(とばり)をあげて何年かに一度と期を定めて拝する法会の事であり、元善光寺では、数えの七年毎に一度、丑年と未年に御開帳を行っております。

御開帳となる元善光寺の御本尊様は「一光三尊阿弥陀如来」様であり、一つの光背の中に阿弥陀如来(中央)、觀音菩薩(向かって右)、勢至菩薩(向かって左)の三体の仏様が並ぶ独特の形をされております。

開帳となった前立の御本尊様の右手に五色の糸が結ばれ、やがて五色の綱となり結縁柱へと結ばれます。この結縁柱に触れていただくことで、より仏様の御利益を戴けるといわれております。



御縁起

元善光寺は、今から約千四百年前、推古天皇十年に、本多善光公によって開かれました。

本多善光公は信州麻績の里（現在の飯田市座光寺）の住人で、国司に従つて都に上り、ある時、難波の堀江で「光三尊」の如来にめぐりあい、これを背に負つて古里にお連れします。当地を座光寺と称するのもこの縁に因るものといわれております。

その後四十二年間を過ぎ、皇極天皇二年に仏勅によつて「光三尊阿弥陀如来様の御尊像が莘井の里（現在の長野市）に遷される際に、「毎月半ば十五日間は必ずこの麻績の古里に帰り来て衆生を化益せん」との御誓願を御本尊様が残され、この時に授かつた靈木をもとにして善光公自ら一刀三札にて、御本尊様と同じ大きさの「光三尊仮の御尊像」を彫られた上で、この地に留められ、寺は元善光寺とよばれるようになりました。

そもそも元善光寺の名は本多善光公の名に基づき、元善光寺の元は本元の意を表し、御詠歌の「月半ば毎に来まさん弥陀如来、誓いぞ残る麻績の古里」とある様に古来より元善光寺と長野市善光寺の両方お詣りしなければ方詣りと云われております。

一度詣れよ 元善光寺

片詣り



御本尊 一光三尊阿弥陀如来様 御影

元善光寺は、今から約千四百年前、推古天皇十年に、本多善光公によって開かれました。御本尊の「光三尊阿弥陀如来様」は、お釈迦様のご在世当時、天竺國（現在のインド）の月蓋長者の願いによって此の世に出現せられ、欽明天皇の御代に百濟國からわが國へ渡つてこられましたが、蘇我氏と物部氏の争いの後、物部氏によって難波の堀に沈められてしまいました。



お戒壇巡り

御本堂の外陣より、履物を履いたまままでお戒壇巡りをお詣りいただけます。

お戒壇巡りとは、仏様の胎内巡りともい、暗闇の中を手すりをたどって進み、御本尊様の真下に位置する開運の鏡前（仏具の独鉢の形）に触れていただくことで御本尊様とより深い御縁を結んでいただくものであり、またお戒壇を巡ることで、生まれ変わるという意味合いがあります。

元善光寺のお戒壇巡りは無料でお詣りいただけます。

宝物殿

・座光の臼

今から千四百年前、本多善光公が御本尊様を難波の堀より迎えた時に、淨めた臼の上に御尊像をご安置され、此の臼から光明がさして光り輝いたことから座光の臼と呼ばれます。

・涅槃像

御釈迦様が亡くなられたことを涅槃に入られたと申し、その御姿を現した御像です。

当山には二体の涅槃像が祀られており、その内の二体は飯田市の文化財に指定されております。

・薬師三尊像

薬師如来様、脇侍の日光菩薩様、月光菩薩様の三体の御像で、当地域でも最大級の薬師三尊像です。西方にある阿弥陀如来様の極楽浄土に対し、薬師如来様の淨瑠璃淨土は東方にあります。

その他、仏像仏画等八十点程が宝物殿に収蔵されています。



平和殿 外観



宝物殿 外観



この鐘は戦時中供出の後、昭和二十五年四月平和を祈念するため、に当時の衆議院議長、大臣各位の協賛によって再鋲奉獻せられたもので、銘を善光寺貫主清水谷大僧正に、「平和の鐘」の揮毫は元久連宮朝融王殿の筆によるものであります。

この鐘は戦時中供出の後、昭和二十五年四月平和を祈念するため、に当時の衆議院議長、大臣各位の協賛によって再鋲奉獻せられたもので、銘を善光寺貫主清水谷大僧正に、「平和の鐘」の揮毫は元久連宮朝融王殿の筆によるものであります。



平和の鐘

平和殿

平和の鐘

間口十二間、奥行七間半の建物で、西国三十三番の札所の觀音様をお祀りしており、西国三十三觀音靈場お砂踏み参拝が出来ます。

お砂踏み参拝とは、西国三十三觀音靈場の第一番から第三十三番までの各御寺院の境内から戴いてきたお砂を敷き、それのお砂の上に立つてお詣りしていく事で、現地に参つてお詣りしたのと同じご利益・功德があるといわれます。